

ライオンズクラブ国際協会

2014-2015 年度

333-E 地区 ガバナー スローガン

『生かせ いのち』 解説

2014 年 8 月

ライオンズクラブ国際協会 333-E 地区

ガバナー 大祢 廣伸

ガバナー スローガン 『生かせ いのち』 解説

出身大学医学部の先輩に高野山真言宗管長しんごんしゅうを務められた阿倍野竜正あべのりゅうしょうという方がおります。高野山大学文学部密教学科卒業後間もなく修行中に喀血されました。死床から生還され「生」に対する渴望により、革めて医学部に入学し直された僧医です。晩年彼の説法を纏まとめた『生かせ いのち』が出版（朱鷺書房）されました。私は研修医時代にその本に接し心から感銘を受けました。示された教えは私の生命観根幹をなしており、日々の診療は勿論のこと日常生活にも生かされております。

以下掻かい摘つまんで解説致します。

生きている＝それは誠に不可思議な現象であり、偉大な現象です。この事は人間だけの生命に限定されるものではなく、大宇宙に存在し連なっている一連の生命現象のほんの一つに過ぎません。私達人間は魚或いは鶏や豚や牛を食べ更には野菜などを摂り、多くの動植物の命を体内に取り込んで生きています。勿論殺生せつしょうはいけない事です。しかし、そうしなければ人間は生きて行く事が出来ません。私達は

生まれてから今迄、数えきれない程多くの犠牲生命に生かされている訳であり、振り返れば大変有り難い事に気付かされます。皆さんが革^{あらた}めてその様に思えば、生命への敬^{けいけん}度な感謝の気持ちが泉の様に湧き上がって来るのは当然の事です。頂戴した貴い犠牲の生命は、私達人間のいのちを生かす営みを通じて生かそうとすべきであり、必要限度を超えて‘むさぼり殺す’事こそを禁じられるべきものです。

即ち自分の命であれ他人の命であれ、犯^{いのち}す生命であってはならず生か^{いのち}す生命でなければなりません。

私達は人間社会に暮らしています。社会性を持って生活を営む事が、いのちを生かす必須条件です。世界保健機構（WHO）は1946年保健大憲章の中で＝健康とは、肉体的並びに社会的に良好な状態であって、単に病気や虚弱が無いと言うことだけに止まらない＝と定義しました。社会性を持つとは、自分を生かしていくと同時に他人（広義では大宇宙）をも生かして行く事を示^し唆^さしています。その為に実社会では、しっかりと“生きる構え”を持つ事が^{すこぶ}頗る大切です。構えがあつてこそ、授か^すったいのちをより良く活

かして行けるのです。即ち生活の糧を得るための生業を充実させ、社会的に陽の当たらない方達への配慮や不慮の災害などに即応している等がそれに当たります。勿論社会性の無い職業は有りませんが、ライオンズクラブに所属し社会奉仕をされる環境に身を置く事は、“生きる構え”を内外に示す一つの大きな意思表示と云えます。

社会性を持って“生きる構え”を日々実行しているライオンズ社会奉仕は、一度しか無いご自分の人生を豊にする行為そのものと云えます。ライオンズクラブ国際協会は間もなく結成 100 年を迎えます。ライオンズクラブがこの様に民族の壁も乗り越え、性別年齢を問わず全世界で継続発展している理由がそこにあります。

We serve